



国際ロータリー 第2620地区 2023-2024 年度ガバナー

中村 皇積

2024/04 Governor's Monthly Letter

— 能登半島地震義援金お礼

3月19日を期限としておりました能登半島地震義援金につきまして、地区内74ロータリークラブと2ローターアクトクラブからの義援金は総額で6,685,804円をお預かりいたしました。心より感謝を申し上げ、第2610地区（石川・富山）にお届けをいたします。

当地の現況は報道等にてご案内の通りですが、ガバナー会を通じても原 勉ガバナーから被災地ロータリークラブやインターアクトクラブの現況をご報告いただきました。例会の目処が立たない、安否確認例会を行った、会長宅で例会をした、校舎が損傷しインターアクトクラブの活動が叶わないなど、被災の深刻さを感じます。

私たちが2021年7月3日に熱海土砂災害を経験いたしました。あの災害に触れ、いかに地域々々に元気なロータリークラブ、ローターアクトクラブがあることが肝要かを思い知りました。

全国のロータリーが支援に乗り出しています。心寄せ会おうではありませんか。

— ポリオ根絶へ — 地区資金負担金のカード決済が始まります —

地区資金負担金は、地区運営に充てるためロータリークラブ会員一人当たり半期10,500円（35歳未満は半額）をお預かりしています。これまでではすべてのクラブが金融機関よりお振込みいただいていたおりましたが、今般、4月1日よりロータリークラブカード（ダイナースクラブ）にてお支払いいただけるようになります。これは日本で初めての取り組みとなります。

本クラブカードは、クラブ単位の活動から生じるあらゆる決済を可能とするクレジットカードで利用額の0.3%がポリオ根絶活動資金に充てられます。入会金・年会費・決済手数料は無料で、送金明細書の送付も不要。地区のホームページから簡単に決済できます。

従来からのMy Rotaryを通じたRI人頭分担金等、ロータリー財団への寄付に加えて、地区HPを通じた地区資金の決済をすべてのクラブがこのロータリークラブカードで決済いただくと約5,000人の子どもたちに「自ら切り開く未来」をお届けできます。日本全体で取り組めば150,000人以上となります。

2023年のポリオ野生株の確認例は12人まで減りました。2024年はパキスタンで2人です。世界で最後まで残ると言われたカンボジア、そしてアフリカ大陸でも根絶してきた私たちの取り組みは、正に最後の正念場です。私たちの手で人類最大の歴史を作ろうではありませんか。

クラブ会長、エレクト、幹事等役員様にはクラブカードの作成を、会計、事務局等実務担当者様にはカードのご利用を是非ともお願いいたします。

詳細は地区研修協議会等にてご案内いたしますので、何卒お力添えをお願い申し上げます。



地区幹事のつぶやき

ガバナーと共に、各グループのIMに参加させて頂きました。それぞれのグループが地域社会との関りを大切にしたいテーマを掲げられていて、ロータリーの未来につながる素晴らしいIMでした。ロータリアンの絆を深めることもでき、感動のひと時を過ごすことができました。

地区幹事 岩澤秀治



静岡第3グループ IM



2024年3月2日(土)14時30分より日本平ホテルにおいて、静岡第3グループ(静岡市内11RC)のIMが開催されました。主催は阿部裕之ガバナー補佐、ホストクラブは静岡日本平RCが務めました。

来賓として難波喬司静岡市長、中村皇積ガバナー、志田洪顯 PG、生子哲男 PG、浅原諒蔵 PG 他をお迎えして、総勢180名が参加し、華やかに開会されました。

今回のテーマは「Fortunate 日本平、だもんで。」とユニークなタイトルでした。メインの講演は元ミスユニバース世界チャンピオンの森理世さん(静岡市葵区出身)とフリーアナウンサーの小沼みのりさん(静岡市清水区出身)によるトークセッションです。

理世さんのミスユニバースときのエピソードや、小沼さんの局アナ時代に経験した静岡各地の話題で大変盛り上がり、これから静岡市が向かうべき未来などについてもお話して頂きました。

懇親会では、静岡日本平RC会員によるミニコンサートやI.R.M.ダンスアカデミーのパフォーマンスで楽しい時間となり、共有の情報と親睦、友情を深めることができ18時30分に閉会しました。

報告ガバナー補佐事務局 中村憲司

静岡第1グループ IM



第1グループの皆さんには「伊豆半島のロータリーはひとつ」のテーマにご尽力を頂きました。

ポリオプラスでは古着の回収をして頂きました。合同奉仕事業では役所、社会福祉協議会との連携で、ひとり親世帯、困窮家庭へのお米の支援事業を行うことができました。

伊豆半島の8つの市町の後援を頂き、伊豆半島のロータリークラブの存在感を示すことが出来ました。

もう一つのテーマは「なんとかしよう！子どもの孤独」です。今は貧困家庭に食事を支援するだけではなく、学校に行きづらい子供さんや、子育てに行き詰まった保護者の相談室のような居場所を提供する子ども食堂。子供さんのSOSを見つけるための、移動駄菓子屋さん。

今、特に感じるのは、不登校の子供さんが多くなったことです。ボランティアの色々な資格者が、子供さんや保護者へのアプローチを続けてくれています。

「孤独の問題は」学校や家庭など、単独で解決出来るものではありません。地域社会で子供を育てる雰囲気を作り、相談しやすい環境を作る。

その一翼をロータリーが担う事ができないでしょうか？

目の前に！孤独な子供さんがいます！

ロータリアンとして子供さんに声を掛ける準備をしておくことが必要ではないでしょうか？

基調講演はむすびえさんに「子供食堂」の現状についてお話し頂きました。懇親会では子供の伝統文化「シャギリ」農兵節「など真心を沿えてご接待させて頂きました。

静岡第1グループ

国際ロータリー 2620 地区会員数 ※ 2024年 2月現在

期首会員数	前月末会員数	当月末会員数	当月増	当月減	通算増	通算減	女性会員数	
74クラブ	2820	2871	2885	19	5	150	85	261

各種報告事項は地区 HP をご覧ください
スマートフォンのカメラでQRコードを読み取ってアクセスできます



米山記念奨学生期間終了式

2024年3月3日、静岡市のグランディエール・ブケトーカイにおいて、米山記念奨学生の期間終了式が開催されました。

2023年度の卒業生18名のほか、継続奨学生、指導教員、カウンセラー、世話クラブの方々など、およそ100名が参加され、大変盛大な終了式となりました。

中村皇積ガバナー、松村友吉アドバイザーのご挨拶、渡辺郁委員長による奨学生の紹介の後、中村ガバナーから卒業する奨学生一人ひとりに終了証と感謝状が贈呈されエールが送られました。

そして、世話クラブのカウンセラーを代表し、清水中央RCの田島和子様と甲府中央RCの篠原志穂里様から、奨学生の旅立ちにあたり心温まる贈る言葉が披露され、会場には感極まって目頭を押さえる参加者の姿もありました。

終了奨学生からは、代表してリントゥットさん、ハグワスレンノミンダリさん、オウヒボンさん、キュウエイキョウさんの4名がスピーチを行い、それぞれ米山奨学生として過ごしたことで、日本での学生生活がとても充実した時間となり、かけがえのない経験ができたこと、これからの人生に活かしていきたいといった思いなどを、熱く力強く語ってくれました。

最後に、米山校友会の青山チャリット会長から励ましと学友会活動への参加を歓迎する挨拶があり、期間終了式は閉会となりました。

その後は、引き続き食事をとりながらの懇親会となり、終了生や継続奨学生、カウンセラー、大学関係者の方々が次々とスピーチに立ち、奨学期間中の思い出や今後の進路など、和やかに会話を弾んで、笑顔が絶えない楽しい時間を過ごしていただけたものと思います。

会の最後には、コロナ禍が明け久しぶりに会場全体に広がって「手に手つないで」を歌い、全員で記念撮影。終了生の前途を祝しつつ、全ての日程を終えました。

世界に希望を生み出す存在として、卒業された皆様には、米山記念奨学生としての経験を糧に、一層活躍されますことを願っております。



伊東西 RC キュウエイキョウ

皆様、こんにちは。

本日は、来賓各位の御臨席を賜り、盛大な卒業式を挙行していただき、また只今はガバナーをはじめとする多くの皆様からの暖かい訓辞と激励のお言葉を賜りまして、私たち卒業生一同、感謝の念でいっぱいでございます。私たちが今まで育て、大学にまで通わせてくださった両親、家族の皆さん、学問の奥深さを示唆し、時にやさしく、時に厳しく、的確にご指導くださった先生方、共に学び、多くの時間を共有したロータリアン、学友、先輩、後輩の皆さん、そして、私たち若者に学びの場と機会を与えてくださったすべての皆様に、感謝の意を表明したいと思います。今日まで本当にありがとうございました。

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たちロータリー奨学生の生活を終え、卒業の日を迎えることとなりました。

思い起こせば、本当にあっという間の二年間だったと感じます。また、これまでに経験したことのない濃密な二年間でした。

2年前、米山奨学金の合格通知をいただきましたときの喜びをまだ鮮明に覚えています。その時から、米山の奨学金を返還する義務はないことを知り、日本での学びや成長を通じて、いつか倍に社会や米山奨学会に返したいと思っております。

奨学生の間、私は例会にほぼ毎週出席させてもらいました。会員の皆さんにはいつも温かく接してもらい、家族のように支えていただき、心より深く感謝申し上げます。

そして、私の米山奨学生生活を語る上で欠かせないことは、多くの友人との出会いです。思いがけないことからいつの間にか仲良くなり、私の学生生活を彩ってくれました。卒業後の進路選択の際には、不安や悩みを語り合い、支え合ってきました。一緒にボランティア活動に参加したこと、ランチを食べながら笑ったこと、夢や目標を語り合ったこと、ときにぶつかりあったこと。共に過ごした時間は、何事にも代え難い大切な思い出です。春からは、頻りに会えなくなりますが、いつまでも私にとってかけがえのない存在です。

中国の古典から、「貧窮したときにはただ一人その身を修養し、栄達したときには天下をも善に導いたのだ」という教えがございます。今、日本及び世界は、大きな転換点に到達しようとしています。教育、医療福祉、金融、法律、ありとあらゆる分野で古いシステムが機能しなくなり、多くの問題が起っています。混沌とした世の中ロータリーの活動は、国境を超えて、世界平和のために多くの支援活動を実施しております。先輩たちの後を継ぎ、社会をよくする使命を胸に刻みながら、次のステップに進むことが大切です。

私は4月から、就職する都内の国際法律事務所で、様々な法律問題を解決するという切り口から社会に貢献したいと考えています。一刻も早く司法試験に合格し、誰でも尊敬できるような弁護士になることを努力いたします。

最後になりますが、無事に大学を卒業し、続き日本において勉強、就職することができたのは、米山ロータリー奨学会の経済、留学生活のサポートや、知的な刺激を絶えず与えてくれる発想力豊かな先輩たち、ロータリアンのおかげにほかなりません。改めて感謝を申し上げたいと思います。同期の皆さん、日本に止まるのであれば、学友会への積極的な参加、また、母国に帰られ、お国に学友会があれば是非、お国の学友会活動に積極的に参加して頂きたいと存じます。そして、現役の奨学生の皆様、世界に目を向けて、ぜひ米山奨学生の生活を通して、新しい自己の発見と開拓、留学生活が充実したものになることを心

からお祈りします。今後さらに学問の道に進む者も、実社会において職業上の目的に邁進する者も、明日からの人生の節目においてその都度、大学や奨学会学んだことの意義をかみしめ、それぞれの分野で活かし、一人ひとりが託された使命を精一杯果たします。ぜひ、輝かしい未来を切り開いてください！

今後、米山奨学会の益々のご発展と、この場にいる皆様のご健康をお祈りいたしまして、終了生代表挨拶とさせていただきます。



笛吹 RC オウヒボン

皆様、こんにちは。笛吹ロータリークラブ奨学生の王非凡です。今日は最後の修了式ですが、久々に皆に合わせてとても嬉しい気持ちです。私は奨学生になってから二年たちました。

ロータリー米山奨学生制度のおかげで、私は奨学金を受領していて、留学生活の負担が軽減され、学業と研究に専念することができました。そして地区奨学会の行事に参加する機会を通じて多くの学びと経験を積むことができました。

約二年前、コロナウイルスによる自粛の関係で私はほとんど外出できず、日々オンライン授業を聴講し、とてもつらい時期でした。ロータリー米山奨学生になってから、毎月クラブの例会に出席し、スピーチする機会を通じて、自己表現力を鍛えることができました。ほかに、地区大会、研修会、三保松原海岸清掃活動に参加することで、山梨県静岡県の豊かな自然環境を護るの重要性を学び、奉仕の精神を育みました。また、去年に開催した国際料理パーティでは、皆が協力し合って、ベトナムの生春巻き、スリランカカレー、台湾中華スープと一緒に作って、各国の食文化を勉強しながら、異文化理解を深める貴重な経験をしました。

地区奨学会の行事に出席する時に、奨学生や卒業した米山学友の方と交流し、先輩の方々は留学の経験者の立場で、自分が残念に思ったことを後輩に経験させたくないために、たくさんの貴重なアドバイスをしてくださっていただき、本当にありがとうございました。ロータリー米山奨学生として、いつも周りの皆様から暖かいサポートを受けていて、普段、私たちは海外から日本に来た留学生と接することが多いですが、ロータリー米山ファミリーでは私たちが海外から日本に来た子たちとしてお世話になっており、心から感謝しております。

過去の二年間を振り返り、当初の自分に比べて、今の私はたくさん信頼できる仲間たちができて、自分の進むべき道に躊躇なく歩んでいけます。二年前の私は皆さんに助けられて成長できたという観点より、みんなの優しさに救われましたと信じております。今年の春、私は大学院に進学し2620地区から離れますが、今後、ロータリー米山奨学生として得た経験と奉仕の精神を胸に刻み、これからも成長を続け、社会に還元していきたいと思っております。2620地区米山奨学委員会、米山学友会、笛吹ロータリークラブ、そして奨学生の仲間たちに心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



清水中央 RC リンテツェット

いよいよ今日は米山奨学生になってから1年間になり、終了時期になりました。本当にあっという間の時間でした。正直、私は日本に来てから、今までの学生生活で一番楽しかった学生生活を送れた1年間でした。

米山奨学生になる前は、人見知りで人に話しかけることもできなく、毎日がひとりぼっちで寂しかったです。大学生になってからは新型コロナ感染拡大の影響でオンライン授業が多く、学校に行く機会がなかなかできなく、友達も

できなかったです。

お正月やお祭りなど普段皆さんが家族や友達と一緒に楽しい時間を過ごしている時も、私は誰とどこに行き、どのように過ごしたらいいかわからなく、部屋の中に引きこもって、泣いた時もありました。学校とアルバイトだけで毎日を過ごしてきて、お正月やお祭りなど家族と楽しく過ごしたい時もあるのに、ずっとひとりぼっちで部屋の中で過ごしてきた日々が続き、辛かったです。

その時、家族連れで、楽しんでいる人たちを見ると羨ましく感じました。

大学生3年生になってから、ゼミの先生と卒業後の進路を決める面談があり、その時国クーデターの影響で帰国することもできず、日本に生き残るしかない状態でした。帰れない一方で、生き残る行き先もわからなかった私に先生が経済的なサポートだけではなく、メンタル的にも支援している米山奨学金のことを紹介してくれました。どの道にどうやって進めばいいかわからなかったその時の私は、神様に最後の1年間だけを楽しませていただきたいので、その1年間だけをお願いしますと何度も願いました。神様が私の声を聞こえたようで、米山奨学生になれるよう、力をくれました。ありがとうございました。

米山奨学生になってから、友達もたくさんできて、何かあったら、いつでも相談できる日本の家族もできました。毎週、ご飯食べれるところがあって、できれば、時間を取り戻したいぐらい、楽しかったです。皆さん一緒に行ってきた世界大会、清掃活動、一緒に迎えたお正月、また浴衣着て一緒に参加した花火大会などすごく楽しかったです。

日本にいても1人ではないから、いつも頼ってくださいねとか、相談乗ってくれるからなんでも言ってくださいなどの優しい声などが心ポロポロになっていた私を救われました。

これまではずっと人見知りで、人とコミュニケーションとるのが苦手な自分を多くの人と交流させて、スムーズに話せるように挑戦できる機会を多く与えてくれて、ありがとうございました。

私が米山ロータリーの皆様から頂いたのは、経済的なサポートだけではなく、なによりも宝物である暖かい心のプレゼントです。何よりも人生で一番大切である「優しさ」「人間愛がある心」がどんなに人を救われるかを学ぶことができました。これからは、米山奨学生を卒業しますが、米山ファミリーとしては卒業しません。米山学友メンバーとして、周りの人たちに私がいただいた優しさと愛を広げてあげて、人生を皆さんと一緒に楽しく、暖かく、歩んでいきたいです。



甲府中央 RC ハグワスレンノミニンダリ

もう一年に経ちました。

去年の今ごろ一年って12月があるからちゃんと交流できる、クラブの皆と色々な活動がやれると思っていたがあつという間に過ぎてしまいました。私は日本に来てもう5年が経っていますが、奨学生になってこの1年間で4年間住んでいる間にやったことがない活動を1年間でやることができました。

奨学生になって学校やバイト先では中々が会わない多少な素晴らしい人たちで会っている自分をみて、学校とか周りの留学生よりも何歩前に進んでいる気がして、こんな私を選んでくれてありがとうと何回も感謝していました。

奨学生になってから自分では中々自発的にしない奉仕活動、ボランティアなどに参加することができて人生の豊かさを感じました。また、自分より何倍も上の人たちと交流することができたお陰でどこにいても、誰とも仲良く話せるようになったのではないかと考えています。確かに、社会人になったから役に立つに違いありません。

人生で初めて両親以外に私のことを心から心配してくれる人たちと出会って最初はびっくりしましたが、今はまるで私の両親のように愛してくれる人たちを見て、日本に家族と住んでいるみたいな気持ちになって心が強くなりました。

時間が経つことに連れてどんどん年をとって、好きな場所、好きな人たちから離れることがすごく悲しく感じてしまうが、一方でその使った時間の分を成長になっていると考えたら気持ちがちょっとましになりました。

甲府中央 RC 篠原志穂里カウンセラー

奨学生の皆様、ロータリークラブの会員の皆様、本日、私達はここ、奨学生の皆さんの輝かしい一節を祝うためにお集まりいただきました。一年という時が私たちの目の前で、美しく開花した才能と可能性の瞬間を刻んだこと、心から感謝申し上げます。

丁度一年前、奨学生の皆様は緊張した面持ちでこの会場でカウンセラーと初めてお会いしましたね。楽しみにしている事、不安に思っていた事、色々な事を胸に秘めていらした事でしょう。でも今日はどうでしょう、あの時の面持ちとは全く違って自信に満ち溢れ、堂々としていらっしゃいます。きっとこの一年が奨学生の皆様にとってとても実のある時間を過ごされてきた証だと思えます。

奨学生の皆さんはロータリークラブを通じて自らの知識と経験を広げ、新たなスキルを取得し、異文化に触れる事で深い理解と共感を学びました。今日、皆さんはその道のりの重要なマイルストーンに到達しましたが、これは終わりではなく、新たな旅立ちです。

皆さんがこの一年間で積み上げてきた経験は、学術的な成果以上のものです。それは人としての成長であり、グローバルな視野を持つリーダーとしての発展です。ロータリーの理念である「奉仕」の精神は、皆さんの心の中に確かに深く刻まれています。これから先も、挑戦に立ち向かい、新たな学びを積極的に追求しながら、常に他者を思いやる心を持つことを大切にしてください。その素晴らしい精神と行動が、皆さん自身の将来はもちろんのこと、周りの人々やコミュニティへの変革に大きく寄与することでしょう。

修了式を経験しステージを降りる時、皆さんは自信と誇りを持ってください。そして、ロータリークラブ、ご家族、友人、そしてこれまでのご自身に感謝の意を忘れずにいてください。

清水中央 RC 田島和子カウンセラー

昨年4月より、米山奨学生カウンセラーとしてもうすぐ、1年が過ぎようとしています。

私の所属する清水中央ロータリークラブでは、青少年交換留学生の受け入れはしてきましたが、米山奨学生の受け入れはしばらくされていませんでした。

私自身、カウンセラーという役割は初めてで、不安もありました。

初めの情報は、ミャンマーからきている私の母校である英和学院大学の学生。

リン・テツ・テットさんを迎えての初めての例会の日、流暢な日本語で緊張しながらも笑顔で、私たちの質問に答えてくれる姿に、クラブ員全員がホッとしました。

ミャンマーという国が今はクーデターが起きて、とても不安定な事態になっていること。

日本に来て、5年間ひたすら勉学に努めたこと。

そして、日本にいるのに友達がなかなかできなかったこと。

「ロータリーのみなさんにお会いできたことで、日本に来てよかったと心から感じました」の言葉を聞いたとき、クラブ員全員がリンさんの家族となりました。

リンさんは、大学を卒業してからもミャンマーには帰ることができないので、日本で働くことを選択しました。静岡で暮らしていきたい。何回も何回も面接を受けては不採用の通知が来るのです。面接では合格でも、一般教養の試験はパソコンで時間制限付き。リンさんにとって、質問を読み理解し回答する時間がどうしても間に合わず、不採用となってしまいました。でも、あきらめることなく挑戦し続け、見事合格。静岡市清水区で就職が決まりました。

これからも、清水中央ロータリークラブ米山奨学生修了生として、交流を続けていけることにクラブ員全員で大喜びしています。

私自身、4年前に、青少年交換留学生のホストファミリーとしての経験をしたことで、米山奨学生カウンセラーとの違い、役割を知ることができました。高校生とは違い「奨学生は世話をするのではなく、日本という国を選び、学び社会に出ていく人たちです。国を超えて社会に巣立つ奨学生たちに寄り添い、応援する」ことが、一番の役割だと思いました。

お陰様で、米山奨学生受け入れは次年度にも実施されます。

リンさんの後輩となる学生ですが、クラブでの思い出をクラブ員とともに、たくさん作ってほしいと思います。

そして、日本独自の奨学生制度をより多くのロータリアンにご理解いただき、一人でも多くの奨学生を支援できることを祈ります。